



2016年 | 防災マップのためのまち点検@丹坂町



2016年 | 聾学校の生徒に手話防災を学ぶ@なごみん



2018年 | 防災マップを考えるWS@下奥殿



2020年 | 赤ちゃんを守る防災講座@やはぎかん



2020年 | 風水害や災害支援を学ぶ@よりなん



2020年 | 段ボールベッド体験@悠紀の里



2022年 | 100均で買える防災グッズ展示@やはぎかん



2024年 | ボードゲームで学ぶ防災@やはぎかん



2026年 | 防災フェーズフリーを学ぶ@むらさきかん

特集

あなたと防災をつなぐ りたの防災の取組

2026年7月28日、熊本県で震度7を観測する地震が発生しました。2016年熊本地震から10年と3か月。大きな災害が起こるたびに、被災地の大変さに思いを馳せながら、被災地のために何ができるか、そして、いつか自分の身に降りかかるかもしれない災害に対して何ができるのかを突きつけられているように感じます。

りたは防災の専門家ではありません。だからこそ、岡崎市防災課や災害ボランティア・おかざき、あいち防災リーダー会、女性防災クラブはじめ、専門性を有する機関・団体と、地域の方々の橋渡しをすることに努めてきました。また、防災の自助力・共助力を高めるための実

践的な講座やワークショップにも力を入れてきています。5つの地域交流センターでは、それぞれの地域事情に合わせた講座、子ども／女性／障がい者／若者など、様々な属性、立場や状況に応じた学びの場を設けてきました。今一度、こうした10年間の取組を振り返りながら、私たちができること、すべきことについて考えたいと思います。

◎岡崎市役所では熊本地震義援金募金箱を設置しています。

【受付期間】 10/30(金)まで ※状況により変更する場合あり

【受付時間】 平日9:00～16:00

【募金箱設置場所】 岡崎市役所東庁舎1F総合案内、西庁舎3F受付、福祉会館1F受付

りたの防災の取組

●自分たちで災害リスクを洗い出し、備える — 「地区防災計画」「防災マップ」づくり —

りたは、2015年度から2016年度にかけて、市の防災危機管理課（現・防災課）と協働で「地区防災計画」の策定を支援しました。「地区防災計画」とは、住民や事業者が主体となって定める地域の防災計画です。矢作北学区、松本町、中之郷町、桜井寺町、若松東、藤川西部、戸崎六区、西本郷町の8地区（りた担当は7地区）で、各地区3～4回のワークショップを開催しました。専門家による講習やまち歩きによる災害リスクの点検、災害シミュレーションなどを行い、地域の課題や実情について住民同士で話し合いながら、各地区に合った計画づくりを進めました。あわせて、他の地区が自力で取り組めるよう策定マニュアルも作成しています。

2016～18年度は岩津支所と連携し、丹坂町（恵田学区）、桑原町緑陽台（細川学区）、上奥殿（奥殿学区）で住民による防災マップづくりを実施。自分たちで災害リスクについて学び、情報をまとめ、発信し、備えるという一連のプロセスが地域防災力の向上につながりました。

●きめ細かく対象を設定したプログラム

地域交流センターでは、毎年必ず防災をテーマにした講座やワークショップを行っており、その数は30を超えます。毎回主な対象や切り口を変えることで、様々なニーズに応えると共に、女性や子育て世代、中学生・高校生・大学生、親子層、それぞれができること、すべきことについて知る機会を提供し、いざという時の担い手の拡充を図ってきました【右表】。

主な対象	切り口	事業例（年）
幼児の父母	幼児向けの備えや応急処置について学ぶ	むらさきかん防災講座（2015）
子育て世代の女性	台所・暮らしの延長で備える	やはぎ大衆・防災講座（2017・18）
親子・子ども	実験と工作で「見て・つくる」	自宅での避難生活に必要なアレコレ（2016・なごみん）
小学生・親子	遊びを通じて防災を学ぶ	防災×ボドゲ（2023）、防災交流会（2024）
聴覚障がい者 聾学校生徒	生徒が「教える側」に立つ	手話防災（2016・なごみん）
地域役員・総代会	他学区・他自治体の訓練事例を持ち帰る	町内会サミット（2024）、防災交流会（2025）
女性防災クラブ	短大生と組み、担い手不足自体をテーマに	防災講座（2021・やはぎかん）
高齢者を支える人	包括支援センターと共催、避難所開設を疑似体験	むつみ地域交流会（2024・悠紀の里）
防災以外の活動団体	日ごろの活動を災害時に活かす	防災フェーズフリー（2026・むらさきかん）

▲地域交流センターで行われた防災関連事業（抜粋）

自助力・共助力を高める

南海トラフ地震は、30年以内に60～90%程度以上の確率で起こると言われています（政府地震調査委員会・2026年1月1日時点）。家庭で備蓄をしても、外出先で被災したり、家屋の倒壊などで備蓄品が取りに行けなくなるということもあり得ます。避難所だけでなく、自宅避難、車中泊などの避難場所によって、また季節によっても必要な備えが変わります。

備えはどれだけしても、十分ということはありません。常に防災の情報をアップデートして自助力を高めること、そしていざという時に助け合える共助力を高めることが何よりもの備えになります。

りたはこれからも、様々な切り口で防災の取組を続けていきます。もし「これまでのプログラムを自分の地域でやって欲しい」「新たにこんなテーマで講座をしてほしい」などのご意見やアイデアがありましたら、ぜひお寄せください。

分類	具体例
食べる	乾物講座、ポリ袋クッキング、非常食・カンパン試食、アレンジ非常食
つくる	新聞紙の食器・スリッパ、牛乳パックの笛、ゴミ袋のカップ、防災マップ、地区防災計画
試す	防火カーテンの燃焼実験、起震車、消火器
疑似体験する	DIG（災害図上訓練）、FMB（ファーストミッションボックス）、HUG（避難所運営ゲーム）
遊ぶ	防災ボードゲーム、防災クイズ、防災ダック、体験スタンプラリー
点検する	防災さんぽ（水位表示板・冠水箇所・過去の浸水例の確認）、まち歩き
体験する	心肺蘇生・AED、三角巾、毛布担架、簡易トイレ、ロープワーク

▲様々なプログラムの類型

●会議がうまくいかない一悩みを共有し、学び、実践へ

地域活動や職場の会議で「意見が出ない」「特定の人しかしゃべらない」「話が脱線して終わらない」…そんな経験はありませんか。りたは「まちとしごと総合研究所（以下、まちごと総研）」と共に、そうした悩みやモヤモヤを共有し、創造的な実践につなげる「岡崎ファシリテーション研究会」を月に1回開催しています。

“ファシリテーション”と聞くと身構える方もいるかもしれませんが、共同主催で講師を務めるまちごと総研の東信史（通称：まっくす）さんが、柔らかい雰囲気をつくり出してくれるので、初めての方でも自然に溶け込むことができます。会議の進行や合意形成だけでなく、日常のコミュニケーションやアイデア整理など、様々な場面で使える考え方や工夫について、座学と実技を繰り返しながら掘り下げます。定員12名という少人数制で、冒頭にこれまでの振り返りを行うため、途中の回からでも安心してご参加いただけます。

●学びながら、試しながら育つ場

参加者の年齢は20代からシニアまで幅広く、属性も地域活動の担い手や行政職員、学生など多彩な顔ぶれ。これまで、参加者の実際の困りごとや疑問を踏まえ「場のつくり方」「意見の引き出し方」「構造的な整理の仕方」などをテーマに、具体的な手法を習得してきました。アイスブレイクのアイデアを持ち帰り実践したところ、参加者がいつもより笑顔で会議を始められたという嬉しい報告も。

会議も地域も、参加する皆が前向きな気持ちでいれば良くなる！そう感じている方の参加を歓迎します。参加すれば気づきがあり、仲間と学びながら試しながら、自分なりの進め方を育てていきませんか。



▲「場づくりのファシリテーション」
落ち着いて話せる雰囲気づくりのため和室で開催。



▲「構造化とファシリテーショングラフィック」
付箋や模造紙を使って整理し関係性を見つけるワークを実施。

●第5回 10/24(土) 10～12時@りぶら

●第6回 11/21(土) 10～12時@りぶら

↑いずれも500円/回。1回だけの参加も大歓迎！

●1日で習得！1Day特別編 参加費：8,000円

9/26(土) 10～16時@市民会館

「地域でプロジェクトを動かす問いと会議のデザイン
ー企業・NPO・自治体・市民活動のための実践講座」



▲お申込み

りた's EYE

「地域役員交代のタイミングに、前向きな会議をするための『会議のお作法』として一緒にファシリテーションを学べたら」という意見が。自分たちが得た技術や気づきを実践し広げていくことで、みんなが気持ちよく参加でき、前向きでワクワクする会議が増え、まちの活動が良くなったら嬉しいな。

Topics

7月7日7時7分 水辺で乾杯！in岡崎

●桜城橋の上でみんなで乾杯！

今年で11年目を迎えた岡崎の「水辺で乾杯！*」。会場となった桜城橋には、QURUWAで暮らす人、活動する人、仕事帰りに立ち寄った人など老若男女200人程が集まって、みんなで乾杯！

元を辿れば2016年、りたが事務局を担った水辺活用の社会実験事業「おとがワ！ンダーランド」の関係者が集い、プロジェクト実施前の決起集会的に行ったのが始まり。その後、ONE RIVERに引き継がれて公民連携が深まり、平日でも数百人が参加するイベントとして定着しました。今回は毎月第4土曜日に行われている「桜城橋ふき」の体験や地産木材を使った木工体験ブースも登場。初めての人も自然と輪に迎え入れられるあたたかい雰囲気があり、橋の上の心地よい風に包まれて、そこらじゅうで輪ができていました。



▲桜城橋の上で乾杯！（撮影者：ONE RIVER）

*「水辺で乾杯」は、7月7日（川の日）午後7時7分に、全国で一斉に乾杯を行うことで、水辺活用の機運を高めると共に、身近な水辺の利活用を促進する取組み。主催はミズベリング・プロジェクト。2025年は全国282か所で開催。



拠点運営での取組報告

よりなん

6/20

担い手不足×団体運営をラクにしちゃおう！

●総来場者数 19名

●協働先 岡崎おもちゃ病院

○高齢化や人員不足により団体運営に負担を感じている市民活動団体や地縁団体を対象に、LINEやGoogleツールを使ったIT活用講座を開催しました。岡崎おもちゃ病院の石田氏による事例紹介に続き、参加者は実際にスマートフォンを操作しながら各種ツールの活用方法を学びました。特に、LINEの「日程調整」「投票」機能は、日常的にLINEを利用している参加者にも新たな発見があり、運営の効率化に役立つ機能として高い関心が寄せられました。また、講座資料は講座終了後も実践の手引きとして活用できるよう内容を充実させたことで、継続的な学びに役立つ資料として高い評価を得ました。



▲岡崎おもちゃ病院石田氏による事例紹介

新理事長 ご挨拶

今年の6月末に、理事長に就任した中村です。

りたの理事長として7年間務められた築瀬前理事長の後任として、更なるりたの発展のために、微力ではありますが精一杯努めていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

岡崎まち育てセンター・りたは、今年、法人が設立されて20周年を迎えますが、りたが設立された2006年の20年前と比べ、社会情勢も変わってきており、社会課題の解決に取り組む公益的な活動のあり方も大きく変化してきています。りたの理念を踏襲しつつ、時代に即した活動を行う中で、行政や市民活動団体、地域の方々との協働型社会を促進し、持続可能な社会づくりを進めていくべく、りたの職員一丸となって知恵とアイデアを出し合いながら事業を進めていきたいと考えています。



中村 耕 新理事長

人や地域との関わりが希薄になっている時代ではありますが、りたの活動を通じ、少しでも市民協働を推進し、地域課題にも取り組む中、まちづくりや人づくりのお役に立てればと思っています。また、地域や市民活動団体の方々との交流や活動を通じ、りた自身も皆様に育てていただければと思っていますので、よろしくお願いいたします。

新事務局長 ご挨拶

7月から事務局長に就任いたしました、深田賢之です。よろしくお願いいたします。

私は平成24年（2012）4月にりたに入社以来、主に岡崎市内の地域交流センター5館の運営に携わってまいりました。これまでのセンター運営を通じ、利用者や地域の皆様と対話を重ね、活力ある地域社会のあり方について、大変多くのことを学ばせていただきました。一方で、事務局長の責務を全うするにはまちづくりや組織運営の知識も経験もまだまだ十分ではなく、今後の舵取りには不安な気持ちもございますが、視野と心を広くもち、一つ一つ学ばせていただきながら、皆様とともによりよい「りた」になるよう、務めてまいりたいと思います。



深田賢之 新事務局長

りたの所以である「利他」の精神を胸に、市民の皆様にとって「りたがあってくれてよかった」と思ってもらえるような、真のまち育て中間支援NPOを目指して尽力してまいりたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒宜しくお願いいたします。

お問合せ	よりなん	59-3600	むらさきかん	66-3066	市民活動センター	23-3114
なごみん	66-8251	やはぎかん	33-3665	悠紀の里	57-5050	まち育て推進チーム
						23-2888

まちのミカタ

Litaracy

発行・編集



岡崎まち育てセンター・Lita

〒444-0031 愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL (0564) 23-2888 / FAX (0564) 23-2898
<http://www.okazaki-lita.com/>
<https://www.facebook.com/okazaki.lita/>

配布

岡崎市図書館交流プラザ・Libra / 岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送等 ※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力

岡崎市役所各支所 / 岡崎市各市民センター / シビックセンター /
FMおかざき / 杉くんの駄菓子屋 / 松應寺 / cafeくらがり /

2026.9 vol.141